

Philosophy

価値創造

- 09 基本理念「信頼の絆」
- 10 価値創造のあゆみ
- 11 価値創造プロセス
- 12 経営資本
- 13 マテリアリティ



信頼の絆

Corporate Philosophy

100年を超える「信頼の絆」を、 これからの原動力に。

私たちの100年以上にわたる価値創造の歩みは、相対するすべてのステークホルダーとの信頼関係の上に成り立ってきました。たとえば、お客様との関係においては、高品質、長期的関係、安定供給、緊急対応、技術サービスや素材開発まで、当社への信頼に応じていく、まじめに誠実に行動する価値観を、経営の基本理念として言語化したものが「信頼の絆」です。

鉄のリサイクルに不可欠な黒鉛電極、高品質のタイヤの原材料となるカーボンブラック、半導体製造に必要な最先端素材の開発など、いずれも産業のインフラを支える素材として長期の安定した供給に欠かせないものであり、お客様・原材料サプライヤー・株主・お取引先様・従業員・社会と共創することで、信頼を蓄積してまいりました。また、数々のグローバルM&Aでは、「信頼の絆」の理念に共鳴する企業との出会いにより、今では海外売上比率が約8割のグローバル企業へと成長するに至りました。

「東海カーボンとならうまくやっていける」と感じていただけることは、私たちの大きな喜びであり、これからも当社独自の恒久的な強みとしての「信頼の絆」をより強固にしてゆく過程で、ステークホルダーの皆様とともに新しい価値を生み出し、拓げていきたいと願っています。

価値創造のあゆみ

社会が変わるように求められる価値も変化していきます。100年以上の歴史のなかで、私たちの創出する価値も時代に合わせて変化していきました。それは社員の並々ならぬ苦心と同時にお客様や関係取引先様の信頼と激励に支えられたプロセスでもありました。

創業 1918-

Level.01

日本の工業化に貢献



1918年4月設立。余剰となっていた水力発電を利用するために始められた電気炉操業における、「良質な製鋼用電極の自給」のため創業。

⚡ 信頼の絆 エピソード01

1934年、世界最大の直径18インチ電極の製造に成功。設備の改良と拡充を繰り返し、国内自給の国家的使命に応えた。

Level.02

世界のインフラ発展に貢献



1955年頃より、黒鉛電極を中心に輸出が活況となり輸出比率上昇。

1987年、ニューヨークに現地法人(TOKAI CARBON AMERICA)を設立。

1996年頃より、ファインカーボン事業において、欧米、アジアに加工販売拠点を展開し、グローバル市場開拓。

Level.03

グローバル拠点展開で
地産地消型へ

2017年以降、総額約1,800億円に及ぶ5件のM&Aにより海外売上比率は約8割に。

⚡ 信頼の絆 エピソード02



当社のM&Aは、事業会社としての100年に及ぶ歴史や「信頼の絆」のコンセプトが共感され、友好的に進められた。

Level.04

持続可能な社会の実現に向けたソリューション、サービス、製品をCore Valuesに

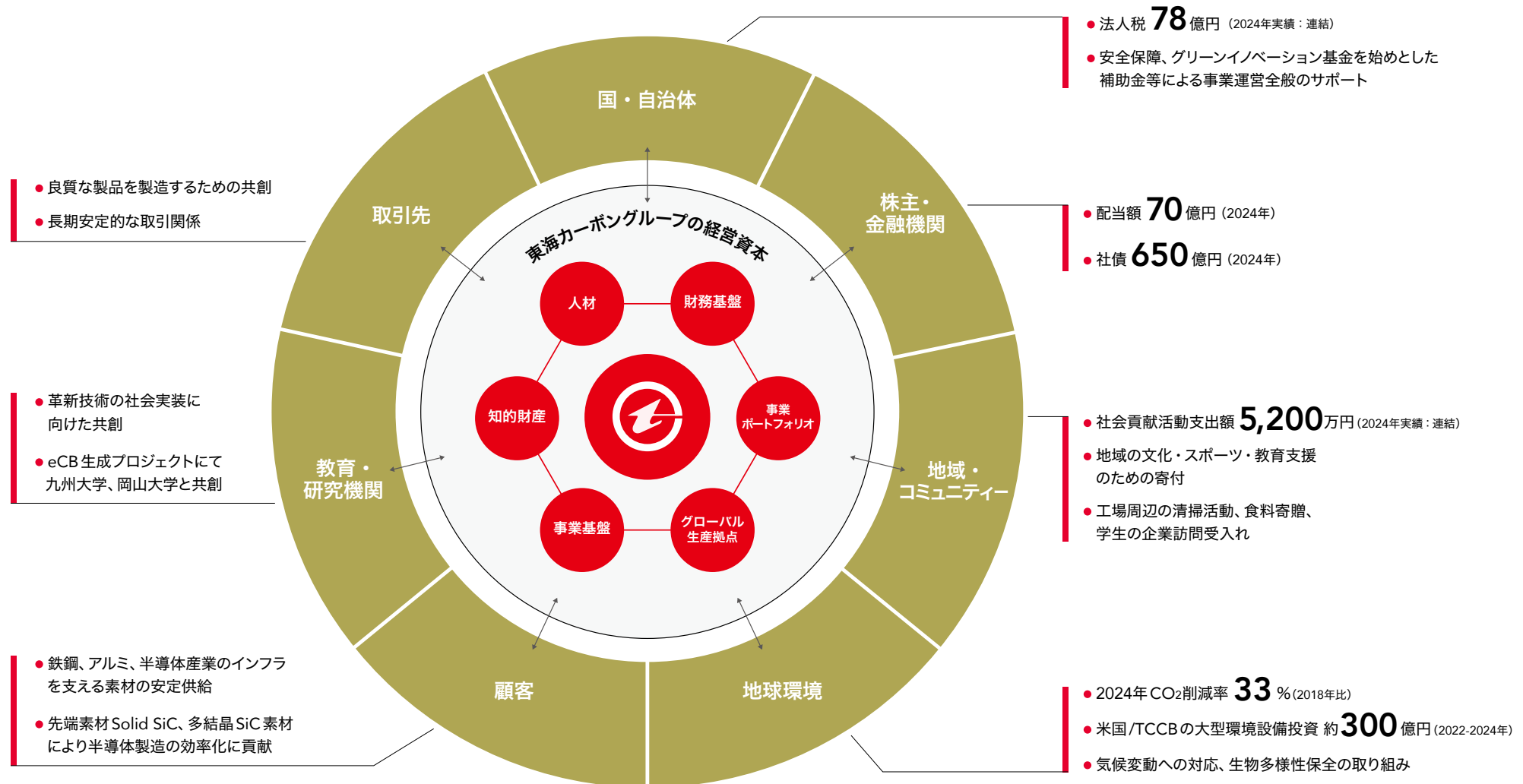
次世代への価値提供

長期ビジョン

Vision 2030

価値創造プロセス

私たちの価値創造のプロセスは基本理念である「信頼の絆」がベースとなります。ステークホルダーとの信頼関係と共創により、東海カーボンの経営資本からさまざまな価値が安定的に創出され、それがまた信頼の絆を強化します。



経営資本

私たちの価値提供は、強みとして培われた経営資本から生まれ、人や社会、そして地球環境へとめぐり、私たちの経営資本として還流する過程で成長し、それがさらなる価値創造につながっていきます。

人材

従業員数(連結) **4,625人**
海外従業員比率 **71%**

価値創造の原動力となる人材。基本理念・長期ビジョンの浸透を目的とした社内説明会開催。社員ロイヤリティとエンゲージメント向上に向けた取り組み実施。

知的財産

高温熱処理技術
微粒子コントロール技術
半導体製造装置向け最先端素材の開発力

微粒子であるカーボンブラックの表面処理技術からプリンターのインクジェット用カーボンブラック開発、半導体エッチング装置向けソリッドSiCなど、当社を競争優位に導く技術の蓄積が次のソリューション価値提供に結びつく。

事業基盤

創業 **107年**
顧客、サプライヤー、パートナーとの信頼の絆

長期にわたり、顧客や原材料メーカーと共創しながら磨かれた品質と技術力は、基本理念「信頼の絆」をカルチャーとして価値が積み上げられてきた。

財務基盤

総資産 **6,407億円**
ネットD/Eレシオ **0.34倍**
格付投資情報センター(R&I) **A**
日本格付研究所(JCR) **A+**

事業戦略を支える安定した財務基盤の維持、向上。最適な資本構成に基づく投資余力の範囲で、ハードルレートを踏まえた資本配分を行うことで事業収益の拡大を目指す。

事業ポートフォリオ

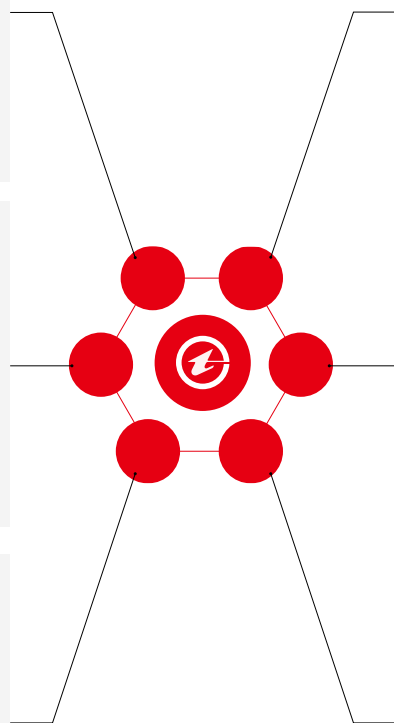
事業セグメント **6事業部門**
ROIC管理による最適資本配分
全社エコノミクスブレッド目標 **7%以上**

事業部門ごとにROIC企業価値向上に向けROICスプレッドの維持・向上を図りつつ、投下資本を乗じたエコノミックプロフィットを最大化する経営資源配分を目指す。

グローバル生産拠点

製造拠点 **40以上**
海外売上比率 **79%**
米国向け売上比率 **33%**

主力事業のカーボンブラック、ファインカーボン、黒鉛電極では、需要地でのグローバル製造拠点展開(地産地消型)
世界最大級の高温熱処理設備の生産能力: 213千トン(2024年末時点)

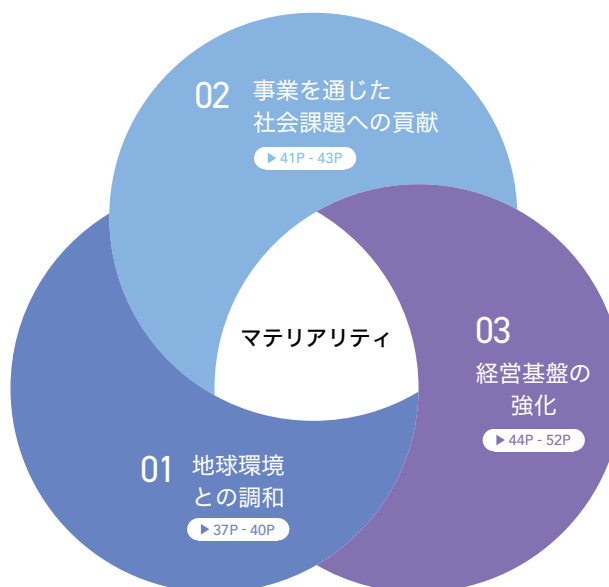
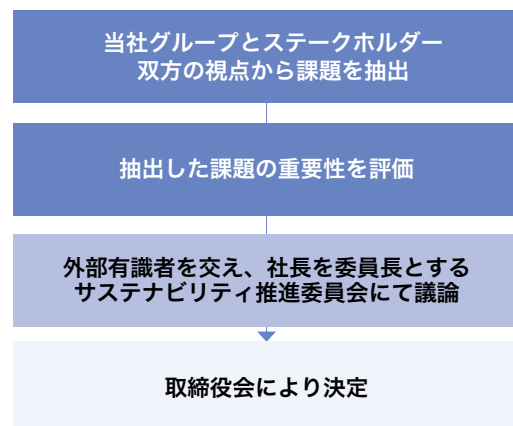


Materiality

東海カーボンの
マテリアリティ

東海カーボンは、ステークホルダーとの共創を通じて、「先端素材とソリューションで持続可能な社会の実現に貢献する」長期ビジョンをありたい姿として掲げています。社会にとっての重要課題と当社にとっての重要課題の2軸より検討を進め、マテリアリティ(重要課題)を特定しました。各マテリアリティに真摯に向き合い、持続可能な社会の実現に貢献していくとともに、取り組み状況について適切に開示しています。

マテリアリティの特定プロセス

01 環境負荷低減
循環型社会の実現

自社/社会へのインパクト

- 気候変動リスク低減、カーボンニュートラル社会への貢献
- 研究開発、製品を通じた環境負荷低減
(黒鉛電極：鉄鋼生産時 CO₂排出量削減に貢献)
- 資源枯渇抑制
- 生物多様性保全
- 気候変動リスクによる事業への影響抑制
- 新たな事業機会創出による売上拡大
- 環境規制厳格化への対応
- 原材料、エネルギー枯渇による操業低下リスク低減

02 技術革新への挑戦
安全・安心な製品の供給
サプライチェーンマネジメント
人権の尊重
コミュニティへの貢献

自社/社会へのインパクト

- 研究開発、製品を通じた産業発展への貢献
(CB:自動車のパフォーマンスと安全性を支える、FC:半導体産業の高度化を支える、S&L:アルミ産業発展を支える)
- 多様性のある社会の実現
- 地域の雇用創出
- 革新技術や新製品を通じた社会貢献
- 人権侵害等の不祥事抑制
- サプライヤーとの良好なリレーション構築

* CB:カーボンブラック、FC:ファインカーボン、
S&L:スメルティング&ライニング

03 コーポレートガバナンスの強化
コンプライアンスの徹底
多様な人材の確保
労働安全衛生の推進

自社/社会へのインパクト

- 持続可能な社会の実現に貢献する人材の育成
- 不祥事リスク抑制
- 従業員の健康、安全、基本的生活水準の確保
- 働きやすく働きがいのある職場環境により
従業員エンゲージメント向上